



# 学校だより

狛江で育ち狛江一中で学んだことを  
生涯の誇りにできる生徒の育成  
11月号 令和4年11月1日

## 狛江市立 狛江第一中学校

狛江市和泉本町 2-15-1  
TEL 03 (3480) 0121

### 成長の種

校長 吉田 知弘

本校では廊下や階段などですれ違うとき、多くの生徒が気持ちの良い挨拶をしてくれます。そんなとき、時折、「あれ、この子はこんなに大きかったっけ？」と思うことがあります。以前より言葉遣いや顔つき、体格などが大人っぽく成長したな。と感じたときです。

ところで生徒たちの身長は中学校3年間でどのくらい伸びるのでしょうか。個人差はあると思いますが、文部科学省が毎年実施している「学校保健統計調査」の令和3年度調査結果によれば、男子は3年間で約15cm伸びるそうです。1年間ではおよそ5cmです。これは、ある特定日(例えば誕生日など)にドンと伸びる訳ではありません。また毎日きちんと計ったように0.14mmずつ伸びる訳でもありません。だから1日にどれほど成長したかは分かりません。たぶん1カ月を単位にしても計れないかも知れません。しかし1年経ってみれば確実に成長していることは数値でも知ることができますし、3年間の成長ぶりは驚くほど大きなものになります。毎日生活を共にしているとなかなか気付にくいことも1年、あるいは3年単位とすれば明らかな成長として感じられることがたくさんあるはずで

早いもので、長いと思っていた2学期も後半に入りました。先日実施した合唱祭では多くの生徒が「本気」でその準備に取り組み、合唱祭当日もその練習成果を存分に発揮してくれました。今年度もコロナ禍の影響を受け、特に3年生は直前まで学級閉鎖のクラスもあり、思うような練習ができなかったかもしれません。それでも一人一人が今できる最大の努力をし、クラスでも学年でも、そして学校全体でもみんなが力と心を合わせ、素晴らしい行事を作り上げてくれました。順位や賞とは違った達成感、充実感、仲間との連帯感など、それぞれが自らの大きな成長を感じてくれたことと思います。運動に得手不得手があるように、合唱にも好きな人とあまり得意でない人がいます。しかしこういった行事を通して、自分の得意なことはもちろん、あまり得意でないことにも全力を出すこと、仲間と協力し互いに支え合うことの大切さなどを学んでくれたのではないのでしょうか。

今週金曜日には「ロードレース」が行われます。こちらでもコロナ禍の影響により3年ぶりの開催となり、特に今年度は従来の「多摩川沿いの長距離走」ではなく校庭を使用した学年別の持久走大会として開催します。「持久走」と聞くと苦手意識をもつ生徒がいるかもしれませんが、体育の授業や朝練習などを通して自分の限界に挑戦し、その練習成果を本番で発揮することで達成感を得てくれればと願っています。自分へのチャレンジでもある「ロードレース」も自らを成長させる種にしていきましょう。

## 落語教室

3学年 池田 清信

落語芸術協会より、講師として真打の雷門小助六（かみなりもんこすけろく）さん、桂伸び太（かつらのびた）さんをお招きし、落語を通して「人に伝わる話し方」を学ぶというテーマで講話、実技披露、実技指導をしていただきました。落語の所作（落語家の必須アイテムである手ぬぐいと扇子を使って様々な表現をする）や一分線香（右向いて左向いて台詞を言いオチが付く短い落語）などについて楽しく話していただきました。一分線香に挑戦した生徒たちは少し照れながらもステージ上で奮闘してくれました。本物の落語家に接し、その話術はもちろんのこと、お客さんを楽しませようとする工夫や熱意に、生徒たちは大いに感激し、たくさん笑い、日本の伝統芸能を深く学ぶことができました。12月の落語教室では生徒の出番が用意されるようで、ますます期待が高まるようです。



## TGG（英語体験学習）

1学年 大橋 弘子

お会場にある TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) に1年生全員で出かけました。TGGでは、生徒8人に1人のエージェントと呼ばれるイングリッシュ・スピーカーが付いて、ビルの1階から3階までに用意された様々なエリアの中で、英語だけを使って体験学習を行いました。生徒たちはそんな空間で、今まで学んだ英語を駆使しながら与えられたミッションを行いました。日頃は間違いを気にして英語を話すのをためらっていた生徒も、身振り手振りを使いながら伝えようという姿勢が見られました。

TGGから戻って、生徒同士で英語を話していたり、私に英語で話しかけたりする生徒が増えました。残念ながら1日の英語体験で劇的に英語力が上がることはありませんが、今回の体験が英語学習への意欲向上につながったのではと思っています。



## 道徳授業地区公開講座

進路学習部 齋藤 拓真

道徳授業地区公開講座の目的は、①生徒の自尊感情を育むこと、②学校・家庭・地域社会が一体となった道徳教育の推進です。感染症の影響でこれまで学校公開ができずにいましたが、今年度は3年ぶりの公開授業を行うことができ、やっと後者の目的も念頭に入れた行事とすることができました。

今年度のテーマは、「夢」「命」「家族」。各学年で特色のある授業実践が行われ、その後、元オリンピック関根花観さんよりご講演いただきました。関根さんは、リオ五輪 10,000mの日本代表選手。学生時代からの苦労やご経験を基に、夢をもつことの大切さ、その過程の重要性をお話していただき、生徒たちにとってまたとない貴重な機会となりました。今後も道徳の授業をとおして、自己を見つめ、人間として成長していく思考を深めさせていきたいと思えます。



## 委嘱式

生徒会担当 石橋 奈都子

10月3日（月）の全校朝礼で、委嘱式が行われました。生徒会役員と後期専門委員長の一人ひとりが、校長先生から委嘱状を受け取りました。委嘱状を受け取ったメンバーを中心に「中央委員会」が開かれます。中央委員会とは、学校内の行事や生活について、生徒総会に代わって審議・議決を行う場であり、そこに出席するということは、生徒の代表として学校の中核を担うということです。

第一回中央委員会での自己紹介では、「中央委員会に出られることを誇りに思う」など、出席者の一人ひとりの確固とした決意と責任感をもってその場に臨んでいることが伝わってきました。2年生を中心に、よりよい一中を目指し、頑張ってください。



## 合唱祭

文化的行事委員 北島 直翔

10月12日（水）に川崎市多摩市民館にて、第19回合唱祭を行いました。一昨年度は中止、昨年度は一中体育館での合唱発表会という形での実施だったため、ホールでの合唱祭は3年ぶりの開催でした。合唱練習では、音程や強弱、パートごとのバランスなど、たくさんのポイントをクラスで意識しながら、実行委員、指揮者・伴奏者やパートリーダーを中心に練習に励んでいました。

当日は、全てのクラスが練習の成果を十分に発揮することができ、精一杯の合唱を会場に響かせてくれました。特に3年生の学年合唱は圧巻で、アンケートで多くの生徒が書いていたように、後輩たちの心に強く残ったようです。最上級生として、一中伝統のバトンを繋いでくれました。閉会式の最後に会場全体から実行委員長に向けて送られた、あの温かく盛大な拍手が、今年度の合唱祭が大成功だったことを表していたと思えます。



今年度から狛江市内の全小中学校がコミュニティ・スクールとなっています。本校は、狛江第一小学校と緑野小学校とともに、「一中ゾーン」になります。狛江市におけるコミュニティ・スクールの取組を紹介している「コミュニティ・スクール通信（月1回発行）」が狛江市教育委員会のホームページにあります。QRコードからアクセスできますので、ぜひご覧ください。

